

第9期第2回地域包括ケア推進会議 <CSW 部会> 会議概要

日時: 令和6年12月16日(月)18:55~21:00

場所: 中野区役所7階 701, 702会議室

出席者: 下記のとおり

【委員】 13名

加山委員、和気委員、渡邊委員、中山(浩)委員、松本委員、秋元委員、小山委員、白岩委員、中村委員、大浦委員、宮原委員、大場委員、白澤委員

欠席者: 2名

丸本委員、新實委員

【区関係部署・事務局】 12名

石井部長、河田課長、河村課長、高橋課長、鈴木所長、荒井所長、平田所長、中村課長、長岡係長、石井主事、竹内係長、藤野係長

議事要旨

1 開会 (18:55~)

- 河田課長が会議の開会を宣言し、欠席者(丸本委員、細野課長)の報告と出席者の紹介を行い、また、前回欠席だった委員が挨拶を行った。

2 部会長および区からの報告 (18:58~)

- 加山部会長が「2025 年問題」に触れ、団塊の世代が全員後期高齢者となり、要介護認定率が後期高齢者は前期高齢者の 7 倍になることが指摘された。今後、官民の地域総出の体制でいかに地域を作っていくかなど、地域包括ケアの重要性を強調された。
- 河田課長が資料「中野区地域包括ケア推進会議第 9 期第 2 回 CSW 部会」に基づき、前回の振り返りと地域包括ケアの現状と課題について説明をした。具体的に、地域福祉コーディネーターの設置やアウトリーチ活動の事例が紹介された。
- 長岡係長が資料「アウトリーチ活動事例 支援に拒否的なケース」に基づき、具体的な事例を交えて説明をした。その際に支援を拒否するケースが増えていることが強調された。

3 社会福祉協議会からの報告 (19:12~)

- 小山委員が鷺宮地域での地域福祉コーディネーターの取り組みについて報告した。CSW(地域福祉コーディネーター)の役割とその必要性についても言及。特に、個別支援と地域支援の両方を行う重要性が強調された。

- 加山部会長から、CSW は個別支援と地域支援両方を行う要。「重層事業」を契機に CSW を配置する自治体は増えており、対応件数が多い。中野区はこれまで区がアウトリーチを行っていた。今後は社協の CSW が区職員と一緒に取り組む、他自治体では例がない「中野モデル」と言える、とのコメントがあった。

4 グループワーク(19:32～)

- 参加者が A、B の 2 グループに分かれ、地域包括ケアの課題と解決策について討議された。

【A グループ】

(1)各分野、横断的なネットワーク化を進めることの重要性について

- ・ 人的・経済的リソース不足から、連携することの難しさ
- ・ 8050 問題、小児難病を抱えるケースへの対応の必要性
- ・ 各福祉分野の取り組みを知ることの重要性

(2)地域共生社会の実現に向けた人材確保の難しさについて

- ・ 友愛クラブの加入率の低さと後継者不足
- ・ 外国籍の方への学習支援と居場所づくりの重要性

(3)情報の収集、整理、活用等に関して

- ・ 地域の居場所一覧やチラシの活用
- ・ ワンストップでの相談対応や情報の集約の重要性
- ・ 対象者への情報伝達に留まらず、連れ出しや同行を行うのも効果的

(4)CSW の体制に関することについて

- ・ 障害福祉分野でのワンストップ相談の難しさ
- ・ CSW の導入目的の明確化と業務内容の整理
- ・ CSW に期待される継続支援、地域づくり、ノウハウの継承

【B グループ】

(1)現状の共有

- ・ アウトリーチチームの発足当初、地域からの理解が不足していた。
- ・ 社協の地域担当は 2004 年から始まっており、アウトリーチの業務も兼任しているが、兼任でやっていく難しさがある。
- ・ 区のアウトリーチチームは、窓口として受けた相談をしっかりと担当している部分があり、そこは中野区の良さ。
- ・ 区民活動が活発なことが中野区の特徴。

(2)アウトリーチチームの課題

- ・ アウトリーチの名称を変えるなどの工夫が必要ではないか。
- ・ アウトリーチ個別支援は、区は人事異動があり、事務職では難しい。
- ・ 相談はどこまで誰がやるかわからず、連携しづらいという声がある。
- ・ 相談対象を受け入れる社会資源の確保が必要。

- ・ 地域の人がどこに相談したらよいかを教えてあげないとわからない。

(3)CSWについて

- ・ 相談と地域の独自の活動を結び付けるための連携に時間がかかるため、CSWが入ることでスムーズに連携できる体制を期待する。
- ・ CSWは住民と一緒に動いてつながらないと意味がない。
- ・ 出口支援ではなく、それからどうなったかを見守っていかないといけない。

5 全体協議・まとめ(20:36～)

○ グループ討議の総括(和気副部長)

地域包括ケアの今後の方向性についてコメントをした。特に、包括的相談支援体制の整備や地域活動への参加促進の重要性が強調された。また、CSWは専門職であり、一朝一夕では育たない。そのため中野区の特徴を活かして、包括と障害と相談機関とが有機的に連携し、慎重に支援を行う重要性も指摘された。

○ まとめ(加山部長)

支援を拒否するケースの対応について具体例:手書きのメッセージを通じて関係を築く方法などが紹介された。ごみ屋敷の支援事例では、関係を築くのに1年、支援に3年以上もかかることが報告され、CSWが目指す地域づくりは、粘り強い継続的な支援が必要であると示された。

分野や立場を超えて、多機関多主体官民超えて専門職もボランティアもつながると科学反応が起きて面白い。「これまでつなげる人」がいなかった。今後CSWというつなぐ人が配置される。今後の目標は、CSWが増え、その地域のやり方を生かして、まだ支援が届いていない人を発見し、その地域における支援につなげる、そうした地域づくりが求められるとのコメントもあった。

6 事務局より連絡事項(20:51～)

- 中野消防署からの火災注意のチラシが配布され、冬期の火災の増加について注意喚起が行われた。
- 次回、全体会3月12日(水)19時～